

主要施策	産業の充実による活力あるまちづくり
施策の柱	6 観光の振興
施策の分類	観光と物産の振興

■ 現状と課題

○観光イベント

当町で行われる最大の祭りは「つるたまつり」です。しかし、花火大会以外のイベントに来る見物客は減少傾向にあり、祭り全体の検証が必要になっています。

○観光資源の再確認

津軽富士見湖周辺は、町を代表する観光資源として、「鶴の舞橋」、「富士見湖パーク」、「丹頂鶴自然公園」、「鶴の里ふるさと館」が整備され、町民の憩いの場であり、毎年多くの観光客が訪れています。しかし、観光客の入込数は横ばい状態であり、既存の観光資源を再確認するとともに新たな観光資源の掘り起こしをする必要があります。

○広域観光への取り組み

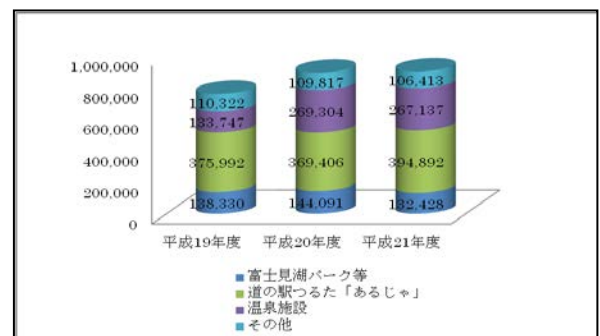
広域的な観光振興を図るため、近隣市町との連携を強化し、観光イベントの開催や活動など観光客をひきつける魅力を継続的に発信する必要があります。

○観光地へのアクセス

JR 陸奥鶴田駅周辺には、駅前広場や駅前通りが整備されて、「五能線リゾートしらかみ」が停車するようになり、観光客の受け入れ体制は整っています。しかし、路線バスについては、JR との接続が悪く利用者の利便性の向上を図ることが必要です。

6-1 鶴田町への観光客入り込み数の推移[t1][t2]

(出典：産業観光課調べ)



津軽富士見湖

鶴田町を代表し、廻堰地区にある大溜池は、1660年に津軽藩主・津軽信政公によって、西津軽地方の新田開発用水源として築造されたものです。築造後に自然災害等より決壊した際も、関係者のたゆまぬ努力によって修復され続け、現在も西津軽地方の農業地帯400haを潤し貴重な水源となっています。

現在、ため池には樹齢150年以上の青森ヒバを活用した「鶴の舞橋」が架けられており、全長300mの三連太鼓橋では日本一長い木橋であり、堤の長さ4.2kmは共に『日本一』を誇っています。

また、正式名称は「廻堰大溜池」ですが、津軽富士として知られる秀峰「岩木山」を眺望できることから、『津軽富士見湖』の愛称で親しまれています。



富士見湖パーク

津軽富士見湖畔に広がる富士見湖パークは、家族連れで賑わう12.4haもの広さのある総合公園です。

360度のローラー滑り台、芝生ではアスレチックやコンビネーション遊具が目をはきます。バーベキューができるピクニック広場などもあり、鶴の舞橋や丹頂鶴自然公園などとあわせて楽しむことができます。



丹頂鶴自然公園

江戸時代の頃数多くの鶴が飛来したと伝えられています。

平成4年頃に「生きた丹頂鶴誘致」の気運が高まり、絶滅危惧種である丹頂鶴を平成5年に中国黒龍江省より2羽譲り受け、平成9年にはロシア連邦アムール州よりつがい譲り受け飼育しています。

現在では当町で誕生出生したものや、多摩動物公園から借り受けしている丹頂鶴が飼育されており、貴重な丹頂鶴の生態を観察することができます。



■ 目指す姿（基本方針）

- 遠方からの観光客を呼び込むような魅力あふれる観光イベントを開催するまちを目指します。
- 津軽富士見湖をはじめとする既存の観光施設・観光資源の有効活用はもとより、農産物を活かした体験型・滞在型観光といった新しいビジネスモデルを構築し、町民がおもてなしの心を持って接することで、将来的には100万人の観光客が訪れるような観光のまちを目指します。
- 東北新幹線全線開業効果を継続させるために、津軽地域内での連携を強化し、地域の観光資源の掘り起こしをするとともに、それを繋ぐ観光ルートの構築を行い、その情報を強力に発信することで、観光客に満足していただける観光のまちを目指します。

■ 施策の内容

- 観光協会や関係団体と連携して、イベント全体を見直し、イベント内容や観光地をホームページで紹介し、観光の宣伝強化を図ります。
- 「朝ごはん条例」を掲げている町ならではの特産物を生かした体験型観光、滞在型観光により安定した観光に取り組みます。
- 観光客100万人を呼び込むための「観光振興プラン」を策定します。
- 東北新幹線全線開業に伴い、周辺地域の市町村と連携して、津軽地域を観光の舞台とした広域観光の充実と振興を図っていきます。
- JR「陸奥鶴田駅」と路線バスの接続がスムーズにいくよう、利用者のニーズに合った体制を整えます。
- 道の駅つるた「鶴の里あるじゃ」、JR「陸奥鶴田駅」、富士見湖パークを囲むエリアで、体験型観光農園や地元の食材を生かした食事処と宿泊施設などの関連施設の連携により津軽地域内での観光ルートを確立し、重要な拠点として定着させます。

担当：産業観光課